J

YAMAHA

ホームシアターサウンドシステム

AVX-S30

(AVC-S30 + NX-S30 + NX-SW30)

CinemaStation

保証書別添付

取扱説明書

ヤマハホームシアターサウンドシステムAVX-S30をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

ヤマハでは、製品をご購入いただきましたお客様へのサポート・サービスの充実を図るため、「お客様登録」をお願いしております。
以下のオーディオ・ビジュアルホームページからご登録ください。
http://www.yamaha.co.jp/audio/
上記**URL**から、オンラインユーザー登録へお進みください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「〜しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。


警告　この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。


注意　この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



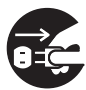
警告

電源/電源コード


必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。


プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **異常に高温になる。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **煙が出る。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池


禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。


禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止


分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置


水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。


禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の上側に10cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。


必ず実行

スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。
ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下し、故障やけがの原因になります。

使用上の注意


禁止

放熱用の通風孔やパネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。


必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。


接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。


禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

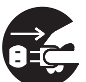
手入れ


必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード


プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。


ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。


禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。


必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。


禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池


必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

指定以外の電池は使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

移動


プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意


必ず実行

再生を始める前には、音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。


禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。


禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。


注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。


注意

本機はデジタル信号を扱います。ほかの電気製品に障害をあたえるおそれがあります。
それらの製品とはできるだけ離して設置してください。


禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ


必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。


禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。


注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

目次

準備する

操作する

細かく調節する

その他の情報

■ はじめに

ヤマハホームシアターサウンドシステム AVX-S30 をご購入いただき誠にありがとうございます。AVX-S30 は AV アンプ（AVC-S30）、サテライトスピーカー（NX-S30）、サブウーファー（NX-SW30）で構成されています。簡単操作でありながら、自然で本格的なサラウンド効果を提供する AVX-S30 で、臨場感あふれるサウンドを存分にお楽しみください。

■ 本書について

- 本書は AVX-S30 の接続および操作方法について説明しています。外部機器の操作方法については、各機器に付属している取扱説明書をご参照ください。
- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 「ご注意」では操作・設定を行う際に留意すべき事項、💡 では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- 本書は製品の生産に先がけて作成されたものです。製品改良などの理由で実際の製品や梱包箱と内容が一部異なる場合がございますのでご了承ください。

準備する

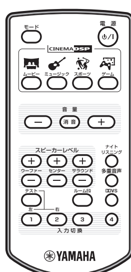
製品構成

AVX-S30 の製品構成は以下のとおりです。梱包箱を開封後、すべてそろっていることをご確認ください。

AV アンプ（AVC-S30）（1 台 ）
サテライトスピーカー（NX-S30）（2 本）
サブウーファー（NX-SW30）（1 本）

付属品

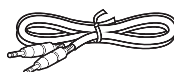
リモコン



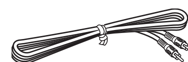
リチウム電池
（CR2025 型、1 個）
リモコンの中にセット
されています。



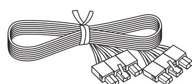
システム接続ケーブル
（5m、1 本）



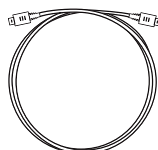
サブウーファー用
ピンケーブル
（1 ピン、5m、1 本）



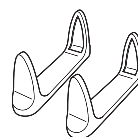
スピーカーケーブル
（サテライト用：5m、2 本）



光ファイバーケーブル
（60cm、1 本）



縦置きスタンド（2 個）



滑止パッド（大）
（1 セット、4 個）



滑止パッド（小）
（2 セット、8 個）

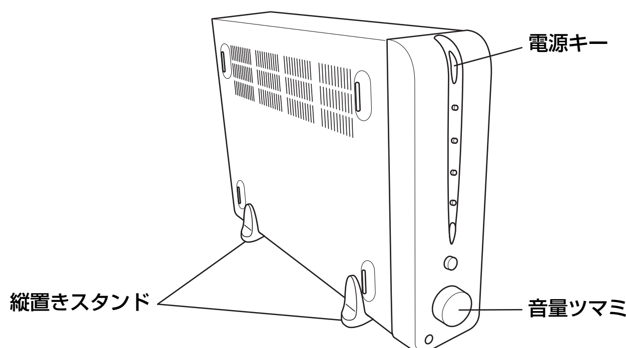


取扱説明書（本書）



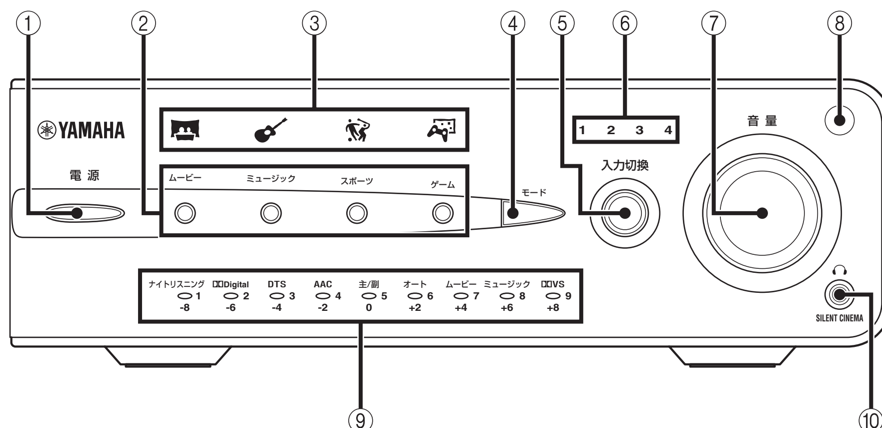


付属の縦置きスタンドを使用すると、AV アンプを縦に設置することができます。（下図のように、電源キーが上側、音量ツマミが下側になるように設置してください。）



各部の名称と機能

■ フロントパネル



① **電源キー**

本機の電源（オン／スタンバイ）を切り替えます。



スタンバイ時には少量の電力を消費します。

② **シネマ DSP キー**

お好みのシネマ DSP を選択します。(→ 12 ページ)

③ **シネマ DSP インジケーター**

選択しているシネマ DSP のインジケーターが点灯します。(→ 12 ページ)

④ **モードキー**

ドルビープロロジック II のモードを選択します。(→ 12 ページ)

⑤ **入力切換キー**

入力を切り替えます。

⑥ **入力インジケーター**

選択している入力の番号が点灯します。

⑦ **音量ツマミ**

全体の音量を調節します。

⑧ **リモコン受光窓**

リモコンの信号を受信します。

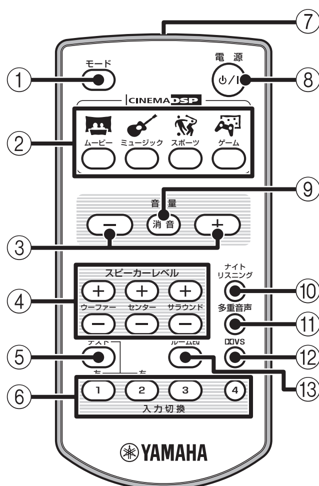
⑨ **ステータスインジケーター**

入力している音声信号の種類 (→ 18 ページ) や選択しているドルビープロロジック II のモード (→ 12 ページ) が点灯します。また音量レベル調節時には音量レベル (→ 18 ページ) を表示します。

⑩ **🎧 SILENT CINEMA 端子**

ヘッドホンを接続します。(→ 13 ページ)

■ リモコン



① **モードキー**
ドルビープロロジック II のモードを選択します。(→ 12 ページ)

② **シネマ DSP キー**
お好みのシネマ DSP を選択します。(→ 12 ページ)

③ **音量 ＋ / －キー**
全体の音量を調節します。

④ **スピーカーレベルキー**
スピーカーバランス（各スピーカーチャンネルの音量）を調節します。（→ 15 ページ）

ウーファー ＋ / －キー：サブウーファーチャンネルの音量を調節します。

センター ＋ / －キー：センターチャンネルの音量を調節します。

サラウンド ＋ / －キー：サラウンドチャンネルの音量を調節します。

⑤ **テストキー**
テストトーンを出力します。（→ 14 ページ）

⑥ **入力切換キー**
入力を切り替えます。

左／右キー：テストトーン出力時に、左キーを押して仮想サラウンドスピーカー（L）の位置を、右キーを押して仮想サラウンドスピーカー（R）の位置を調節します。（→ 17 ページ）

⑦ **赤外線送信部**
リモコンの信号を本体に送信します。

⑧ **電源（⏻/I）キー**
本機の電源（オン／スタンバイ）を切り替えます。



スタンバイ時には少量の電力を消費します。

⑨ **消音キー**
消音します。消音を解除するには、再度消音キーを押します。

⑩ **ナイトリスニングキー**
ナイトリスニングモードを設定します。（→ 13 ページ ）

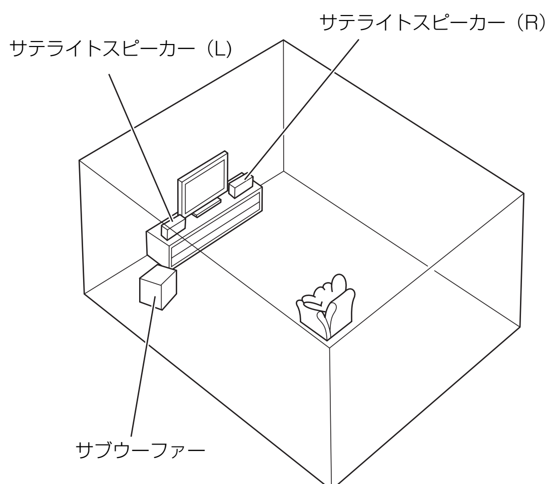
⑪ **多重音声キー**
BS ／地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、本機が出力する音声（主音声／副音声）を選択します。(→ 13 ページ)

⑫ **DDVS（Dolby Virtual Speaker）キー**（ドルビー バーチャル スピーカー）
DVS の設定を切り替えます。(→ 12 ページ)

⑬ **ルーム EQ キー**
サラウンド効果の設定を切り替えます。(→ 16 ページ)

スピーカーを設置する

臨場感あるサウンドを十分にお楽しみいただくためには、スピーカーを安定した場所に適切に設置する必要があります。スピーカーの設置場所を決定後、各スピーカーを正しく設置してください。



サテライトスピーカー（L、R）（NX-S30）
テレビを中心に、左右に同じ距離で設置します。
（視聴する際の耳の高さで、スピーカーどうしの間隔を 80cm 以上、サイドの壁から 80cm 以上離して設置することをおすすめします。）

フロントチャンネル（ステレオ）の音を出力するほか、エアーサラウンド方式により、会話やボーカルなど画面中央に定位するセンターチャンネル音、音響効果を演出するサラウンドチャンネル音などを効果的に出力します。

サブウーファー（NX-SW30）
左右どちらか前方の壁側に設置します。壁の反射を防ぐため、少し内側に向けて設置してください。
主に低音を強調して出力します。

ご注意

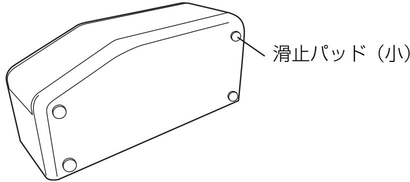
- サテライトスピーカー（NX-S30）は左右対称ではありません。スピーカー背面の「L」、「R」の表示を確認し、サテライトスピーカー（L）はテレビの左側、サテライトスピーカー（R）はテレビの右側に設置してください。
- 十分な音響効果を得るためには、視聴空間での音の伝わり方を考慮のうえ、サテライトスピーカー（NX-S30）を正しく設置し、エアーサラウンドの設定を調節する必要があります。また、家具などの障害物も音響効果に影響します。詳しくは「エアーサラウンドの設定を調節する」（→ 16 ～ 17 ページ）をご参照ください。
- テレビやモニターの映像が乱れる場合は、スピーカーをテレビやモニターから離して設置してください。
- サブウーファーが出力する低音の聴こえ方は、視聴する位置とサブウーファーの設置位置の両方に影響されます。視聴する位置に応じて、設置位置をいろいろ変えてお試しください。

■ サテライトスピーカーを設置する

サテライトスピーカーはラックの上に置いたり、壁に取り付けることができます。お部屋の状況に応じて、お好みの設置方法をお選びください。


サテライトスピーカー底面のネジ穴にスピーカースタンドを取り付けることも可能です。この際は、M6 ネジ（直径 6mm のネジ）をご使用ください。

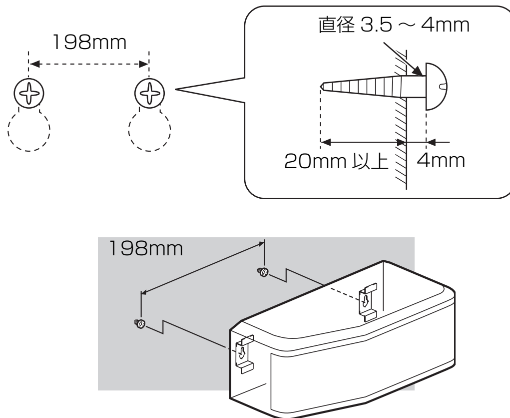
ラックなどの上に設置する



図のように付属の滑止パッド（小）をスピーカー底面の４隅に貼り付け、水平な面に設置します。


滑止パッドはスピーカーの振動による位置ずれを防ぎます。また、安定性が増すことにより、音質劣化を防ぐ効果もあります。

壁に取り付ける



市販のタッピングネジ（直径 3.5 ～ 4mm、長さ 24mm 以上）を使用して、スピーカーを壁に取り付けることができます。スピーカー 1 台につき必要なタッピングネジは 2 本です。

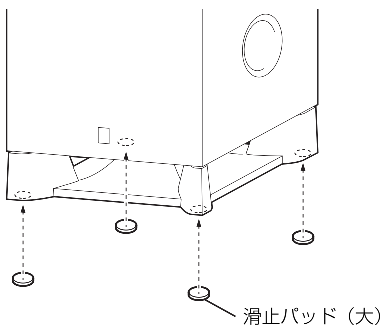
1 **スピーカーを掛ける場所に、左図のように２本のタッピングネジを取り付ける。**

2 **スピーカー背面の穴をタッピングネジの頭にあわせ、穴の狭い部分にタッピングネジが引っ掛かるようにスピーカーを取り付ける。**

ご注意

· スピーカー１台の質量は約 1.4kg です。タッピングネジを壁や柱に取り付ける際には、強固な材質でできている場所をお選びください。**モルタルや化粧ベニア板など、はがれやすい材質の壁に取り付けると、ネジが抜けてスピーカーが落下する原因になります。**
· スピーカーを取り付ける際は、必ず指定サイズのタッピングネジをご使用ください。釘や両面テープなどを使用すると、使用中の振動で釘が抜けたり両面テープがはがれて、スピーカーが落下する原因になります。
· スピーカーを接続する際は、スピーカーケーブルを必ず固定してください。誤って手足に引っ掛かると、スピーカーが落下する原因になります。
· スピーカーを設置後、各スピーカーが確実に固定されていることをご確認ください。取り付け場所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

■ サブウーファーを設置する



図のように付属の滑止パッド（大）をサブウーファー底面の４隅に貼り付け、固く水平な床の上などに設置します。

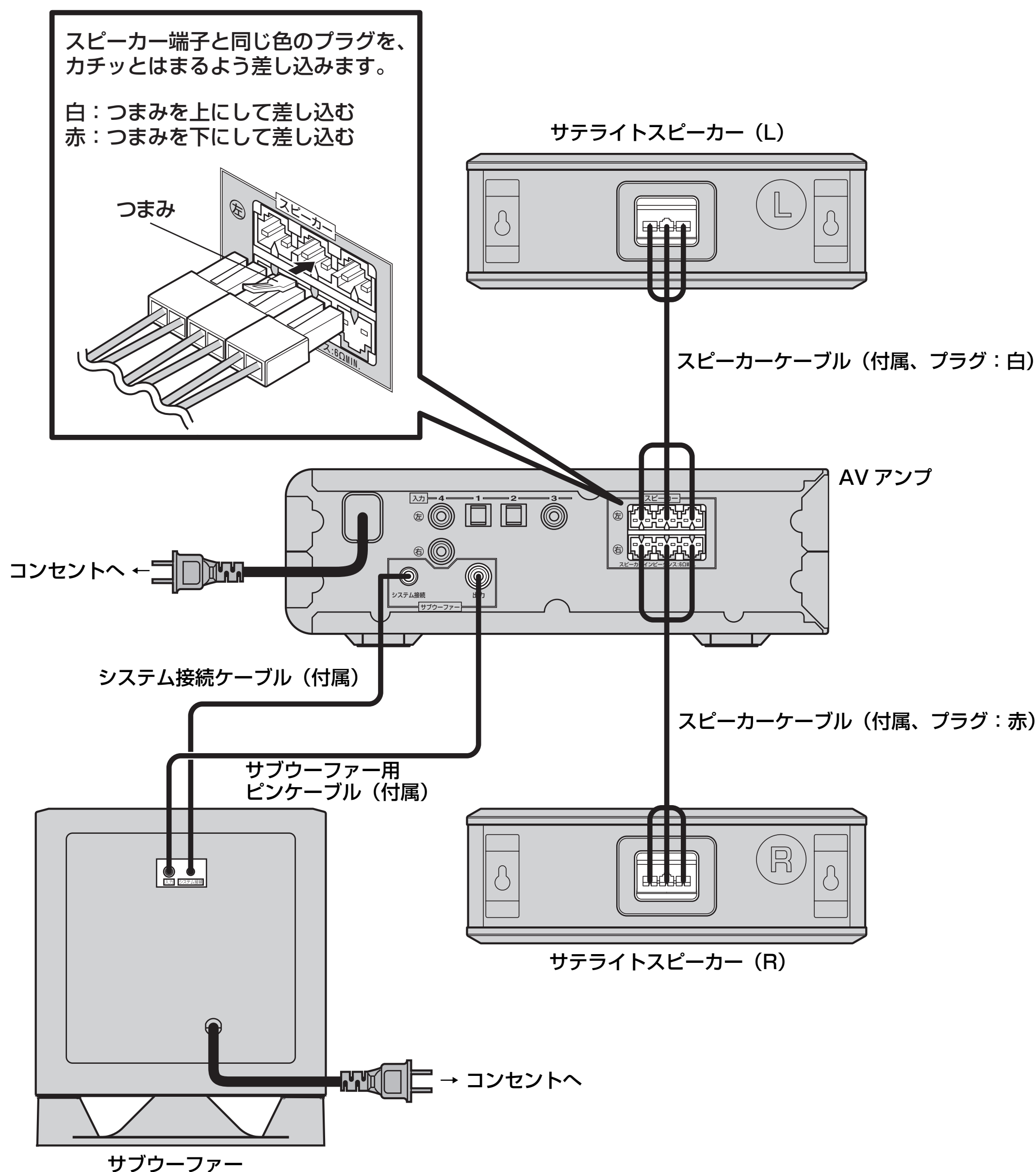

滑止パッドはサブウーファーの振動による位置ずれを防ぎます。また、安定性が増すことにより、音質劣化を防ぐ効果もあります。

スピーカーを接続する

サテライトスピーカー（NX-S30）とサブウーファー（NX-SW30）を AV アンプ（AVC-S30）に接続します。

ご注意

· AV アンプおよびサブウーファーの電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
· ケーブルプラグを無理にスピーカー端子に差し込まないでください。ケーブルプラグやスピーカー端子を破損する原因となります。



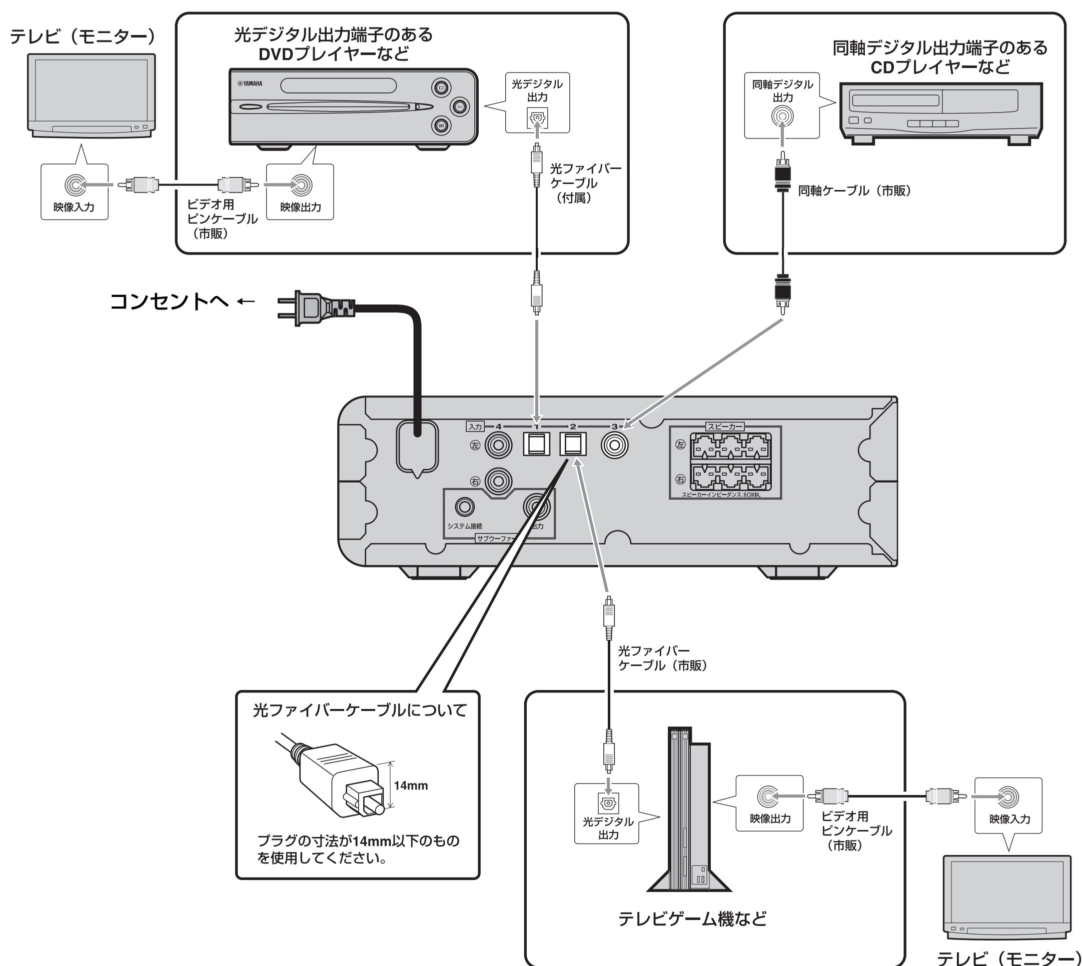
外部機器を接続する

AVC-S30 は、４つの入力端子（光デジタル×２、同軸デジタル×１、アナログ×１）を備えています。接続の際は、外部機器の出力端子をご確認のうえ、正しいケーブルをご使用ください。

■ デジタル接続

ご注意

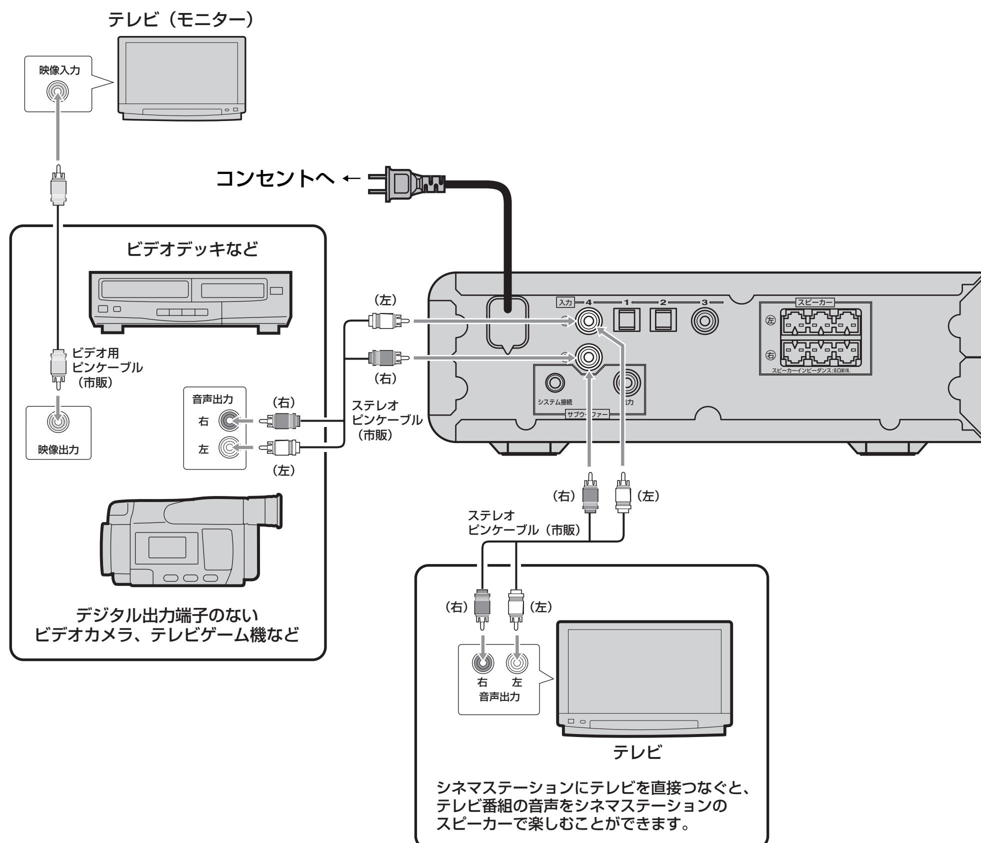
- · AV アンプおよび外部機器の電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
- · 本機のデジタル端子は PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC 信号方式に対応しています。
- · 本機の光デジタル端子は EIAJ 規格に準拠しています。デジタル接続で外部機器を接続する際は、EIAJ 規格に準拠した光ファイバーケーブルをご使用ください。
- · 本機のデジタル端子は、サンプリング周波数が 96kHz 以下のデジタル信号に対応しています。



■ アナログ接続

ご注意

AV アンプおよび外部機器の電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。

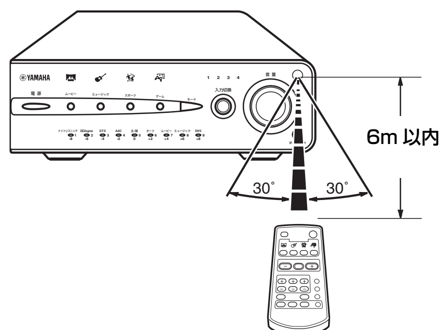


リモコンを使用する



リモコンから絶縁シートを引き抜く。
リチウム電池はあらかじめリモコンに入っています。絶縁シートを引き抜くだけで、リモコンを使用できます。

リモコンの操作範囲



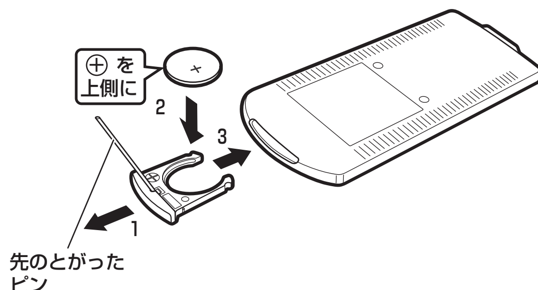
リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から 6m 以内で正面から左右に 30 度以内です。

ご注意

- リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、リモコンに強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  – 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  – 極端に気温が低い場所
  – ほこりっぽい場所

■ リモコンの電池を交換する

リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。



1 **先のとがったピンなどを使って電池ケースを引き出す。**

2 **古いリチウム電池を電池ケースから取り出し、新品の電池を入れる。**
＋（プラス）を上向きにして電池を入れます。

3 **電池ケースをリモコンに装着する。**

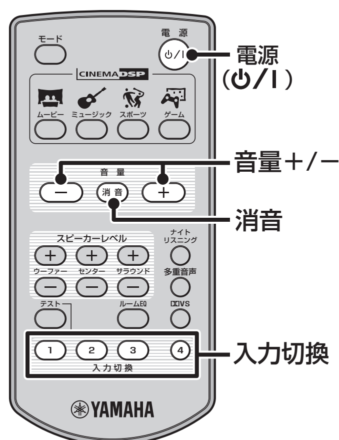
ご注意

リチウム電池の取扱いを誤ると、発熱、発火、破裂などの原因になることがあります。使用中や交換する際は、以下の点に十分ご注意ください。
· CR2025 型をご使用ください。
· 充電しないでください。
· 粗雑に扱ったり、分解したりしないでください。
· 電池を交換する際は、極性 (プラスとマイナス) の向きを正しく装着してください。
· 直射日光のあたる場所など、高温になる場所に放置しないでください。
· お子様や幼児の手の届かない場所に保管してください。誤って飲み込んでしまった場合などは、ただちに医師の診断を受けてください。
· 液漏れしている場合はただちに電池を処分してください。この際、液が皮膚や衣服に付着すると火傷するおそれがありますので、取扱いには十分ご注意ください。誤って付着してしまった場合は、ただちに水道水で洗浄し医師の診断を受けてください。
· 使用済みの電池を廃棄する際は、テープなどで絶縁し、地域の条例に従って火気のない場所に処分してください。

操作する

さっそく使ってみましょう！

必要な接続（→ 7 ～ 9 ページ）とリモコンの準備（→ 10 ページ）が完了したら、まずは外部機器の音声を再生してみましょう！



1 **電源（⏻/I）キーを押す。**
本機の電源がオンになり、フロントパネルの各種インジケーターが点灯します。



本機はオートスリープ機能（省エネルギー機能）を備えています。電源がオンの状態で長時間（約 24 時間）にわたって操作しなかった場合、節電のため、本機は自動的にスタンバイモードになります。

2 **再生したい AV 機器の入力切換キー（1 ～ 4）を押す。**
入力切換キーの番号（1 ～ 4）はリアパネルの入力端子の番号に対応しています。たとえば、入力端子（1）に DVD プレイヤーを接続している場合、入力切換キー（1）を押して DVD プレイヤーを選択します。

3 **選択した外部機器で再生を開始する。**
外部機器の操作については、ご使用の機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

4 **音量＋／－キーを押して音量を調節する。**



一時的に音を消すには、消音キーを押します。消音中は入力インジケーター（選択中の入力以外）が点滅します。消音を解除してもとの音量に戻すには、消音キーを再度押します。

さらに音声を楽しむために・・・

映画館やコンサートホールのような臨場感を楽しみましょう！
→「臨場感ある音声を楽しむ （シネマ DSP)」(→ 12 ページ)

CD などのステレオ音声を仮想マルチチャンネルで楽しみましょう！
→「ステレオ音声をマルチチャンネルで楽しむ（ドルビープロロジック II)」(→ 12 ページ)

ドルビーバーチャルスピーカーでサラウンドを楽しみましょう！
→「ドルビーバーチャルスピーカーを設定する（DVS)」(→ 12 ページ)

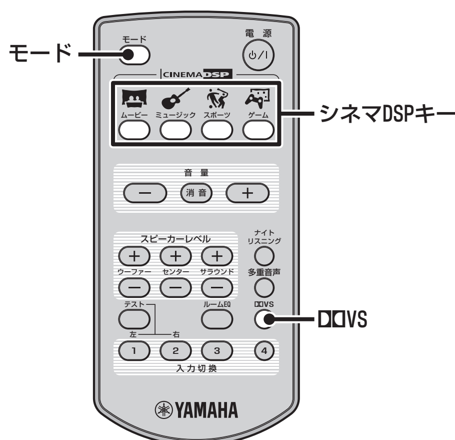
お部屋に合った音響効果を設定しましょう！
→「エアーサラウンドの設定を調節する」(→ 16 ページ)

スピーカーを使い分けて音声を楽しむ

本機は音声を楽しむためのさまざまな機能を備えています。実際に聴いてみて、再生する音声に適している機能をご使用ください。



本機はそれぞれの入力（1 ～ 4）で選択した設定を記憶します。入力を切り替えると、設定も前回選択していたものに切り替わります。



■ 臨場感ある音声を楽しむ（シネマ DSP）

シネマ DSP を設定すると、臨場感ある音響効果をマルチチャンネルでお楽しみいただけます。

お好みのシネマ DSP キーを押す。
選択したシネマ DSP のインジケーターが点灯します。
各シネマ DSP の特長は以下のとおりです。

ムービー
豊かで映画館さながらの臨場感をつくりだします。

ミュージック
ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。

スポーツ
解説者は中央に、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がり、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。

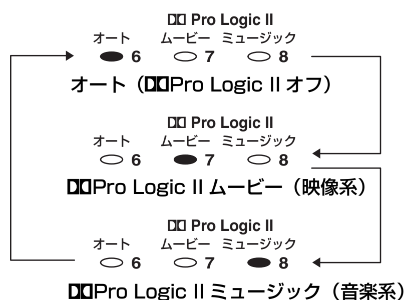
ゲーム
ゲームサウンドに奥行きとサラウンド感を与え、ゲームの迫力を増します。

本来の音に戻すには、モードキーまたは選択中のシネマ DSP キーを押します。

■ ステレオ音声をマルチチャンネルで楽しむ（ドルビープロロジック II）

ドルビープロロジック II を設定すると、CD などのステレオ音声を 5.1 チャンネル音声としてお楽しみいただけます。

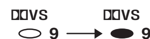
モードキーを押してお好みのドルビープロロジック II モードを選択する。
モードキーを押すたびに以下のように切り替わります。



■ ドルビーバーチャルスピーカーを設定する（DVS）

ドルビーバーチャルスピーカー（DVS）を設定すると、フロントチャンネルとサブウーファーチャンネルの 2.1 チャンネルだけを使用して、5.1 チャンネル音声のような豊かな臨場感をお楽しみいただけます。

DVS キーを押す。
ステータスインジケーター（DVS）が点灯します。
DVS を解除するには、DVS キーを再度押します。

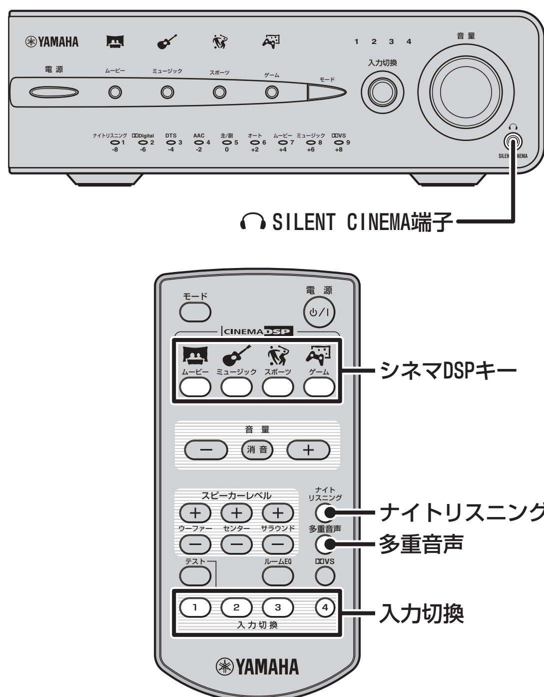




- DVS を設定すると、選択していたシネマ DSP は自動的に解除されます。また、DVS を設定しているときに、シネマ DSP を選択することはできません。シネマ DSP を選択するには、DVS キーを押して DVS を解除してください。
- ステレオ信号を入力している際に DVS を設定すると、ドルビープロロジック II ムービーモードも自動的に選択されます。
- モノラル信号またはモノラル二重音声信号を入力している際は、DVS は機能しません。
- 本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、DVS は機能しません。

いろいろな方法で音声を楽しむ

ヘッドホンや小さな音量設定でも音響効果を存分にお楽しみいただけます。



■ ヘッドホンで音声を楽しむ（サイレントシネマ）

ヘッドホンを本機の SILENT CINEMA 端子に接続すると、サイレントシネマ機能により 5.1 チャンネルの臨場感をヘッドホンで擬似的に再現して音声をお楽しみいただけます。

* 「サイレントシネマ」はヤマハ株式会社の登録商標です。

1 ヘッドホンを SILENT CINEMA 端子に接続する。

2 入力切換キーを押して入力を選択し、外部機器で再生を開始する。

3 必要に応じて、シネマ DSP キーを押して使用するシネマ DSP を選択する。



- 低音域（LFE チャンネル）の信号は別のチャンネル信号に変換されて出力されます。
- シネマ DSP を設定しない場合、ステレオ音声はステレオ再生になります。マルチチャンネル音声は擬似的に 5.1 チャンネルで再生されます。
- 本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、スピーカーから音声は出力されません。
- 本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、DVS は機能しません。

■ 小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニング）

ナイトリスニングを設定すると、大きな効果音を抑えて会話やヴォーカル音声などをはっきりと聞こえるように再生することができます。

1 ナイトリスニングキーを押す。

ステータスインジケーター（ナイトリスニング）が点灯します。

ナイトリスニング 1 → ナイトリスニング 1

2 入力切換キーを押して入力を選択し、外部機器で再生を開始する。

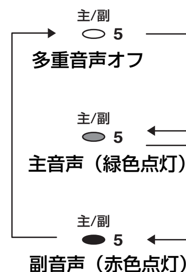
ナイトリスニングを解除するには、ナイトリスニングキーを再度押します。

- ナイトリスニング設定時に、シネマ DSP や DVS を設定すると、小音量で臨場感のある音声をお楽しみいただけます。
- 本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、ナイトリスニングは機能しません。

■ 主音声／副音声を切り替える

BS ／地上波デジタル放送などの AAC 信号で使われている、モノラル二重音声入力時に、本機が出力する音声（主音声／副音声）を選択します。

多重音声キーを押して出力する音声を選択します。
多重音声キーを押すたびに以下のように切り替わります。





- 入力がモノラル二重音声以外の場合、多重音声の設定は出力に影響しません。
- 多重音声がオフの場合、主音声が左チャンネルから、副音声が右チャンネルから出力されます。
- 主音声または副音声を選択している場合、ドルビープロロジック II は選択できません。

細かく調節する

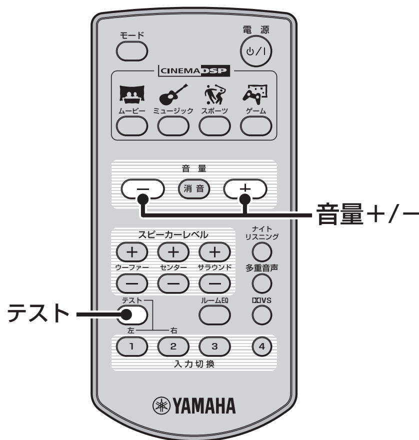
スピーカーバランスを調節する

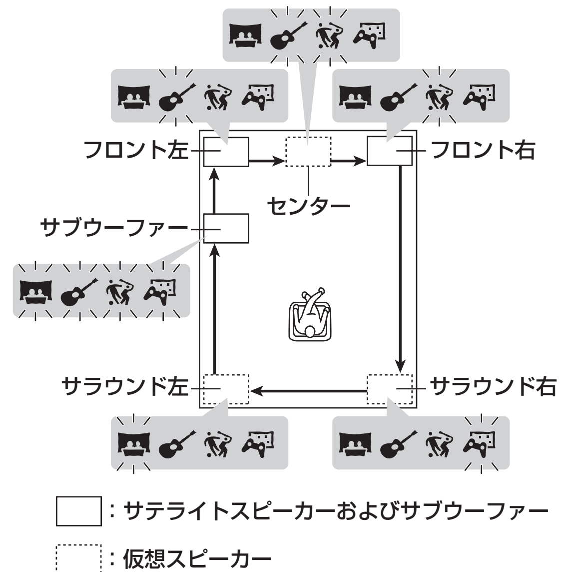
スピーカーバランス（各スピーカーチャンネルの音量）は初期状態で最適な値に設定されているため、通常は調節する必要はありません。ただし、部屋の環境や視聴位置により微調整が必要な場合は、まずテストトーンを使ってスピーカーバランスを調節してください。



- 本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されていると、スピーカーバランスを調節することができません。
- スピーカーバランスの調節は、普段視聴する位置からリモコン操作で実行してください。

■ テストトーンでスピーカーバランスを調節する





1 テストキーを押す。

シネマ DSP インジケーターが点滅し、各スピーカーから約 2.5 秒ずつテストトーンが出力されます。

2 調節したいスピーカーチャンネルのテストトーンが出力されている間に、音量＋ / －キー押しして該当スピーカーチャンネルの音量を調節する。

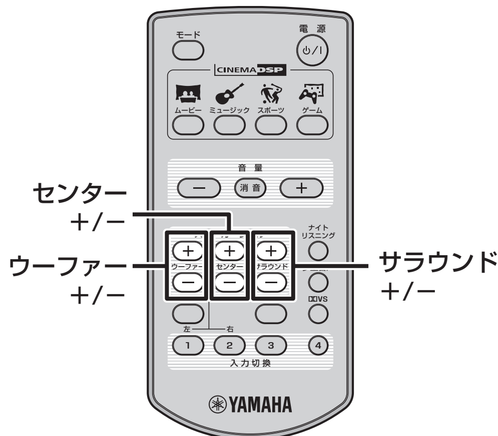
3 設定を終了するには、TEST キーを押します。



- 音量レベルは、ステータスインジケーターで詳細を確認できます（→ 18 ページ）。
- 調節中は該当スピーカーチャンネルのテストトーンのみが出力されます。
- 調節範囲は以下のとおりです。
  - フロント左／右：－６（最小）～± 0dB（最大）
  - センター：－４（最小）～ +4dB（最大）
  - サラウンド左／右：－４（最小）～ +4dB（最大）
  - サブウーファー：－８（最小）～ +8dB（最大）
- DVS を設定している場合、センターとサラウンド左／右の音量レベルは調節できません。
- すべてのスピーカーチャンネルの音量を初期状態（0dB）に戻すには、テストトーン出力中に本体フロントパネルの入力切換キーを押します。（仮想サラウンドスピーカー位置の設定も同時に初期状態に戻ります。）

■ 再生中にスピーカーレベルを調節する

音声を再生中にスピーカーレベルを調節する場合は、以下の手順を行ってください。



再生中に目的のスピーカーレベルキーを押す。

センタースピーカーチャンネルの音量を調節するには：
センター＋ / －キーを押す。

サラウンドスピーカーチャンネルの音量を調節するには：
サラウンド＋ / －キーを押す。

サブウーファーチャンネルの音量を調節するには：
ウーファー＋ / －キーを押す。



- 上記の手順でスピーカーバランスを調節する前に、テストトーンを使用して調節しておくことをおすすめします（→ 14 ページ）。
- 音量レベルは、ステータスインジケーターで詳細を確認できます（→ 18 ページ）。
- 調節範囲は以下のとおりです。
  - センター：－ 4（最小）～＋ 4dB（最大）
  - サラウンド：－ 4（最小）～＋ 4dB（最大）
  - サブウーファー：－ 8（最小）～＋ 8dB（最大）
- 再生中にサラウンドスピーカーチャンネルの音量をL／R個別に調節することはできません。テストトーンを使って調節してください（→ 14 ページ）。

細かく調節する

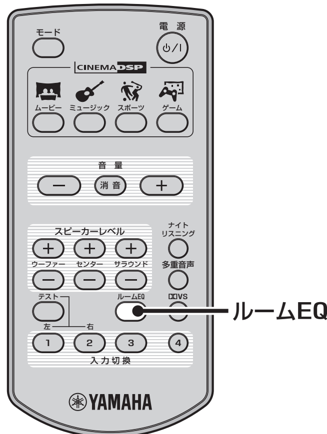
エアーサラウンドの設定を調節する

本機は、2 本のサテライトスピーカー（合計 6 個のスピーカーユニット）により、5.1 チャンネルの臨場感を創り出すヤマハ独自の技術「エアーサラウンド」を採用しています。

エアーサラウンドで創り出す臨場感を存分に楽しむために、視聴環境に合わせて、サラウンド効果と仮想サラウンドスピーカー位置を設定してください。



- DVS を設定しているときに、エアーサラウンドの設定を変更することはできません。エアーサラウンドの設定を変更するには、DVS キーを押して DVS を解除してください。
- 本機の SILENT CINEMA 端子にヘッドホンが接続されている場合、エアーサラウンドの設定を変更できません。



■ サラウンド効果を設定する

お部屋の反響特性（壁の硬さ）に合わせて、サラウンド効果を設定します。吸音材が使用されている壁など、音が反響しにくい場合は「ソフトルーム」に、鉄筋コンクリートの壁など、音が反響しやすい場合は「ハードルーム」に設定してください。

1 ルーム EQ キーを一度だけ押して現在の設定を確認する。

ステータスインジケーターが現在の設定を点滅表示（約 5 秒間）します。初期設定では、ソフトルームが選択されています。

2 ステータスインジケーターが点滅中に、ルーム EQ キーを押して設定を変更します。

ルーム EQ キーを押すたびに以下のように切り替わります。

ソフトルーム
（ステータスインジケーター４～６が点滅）

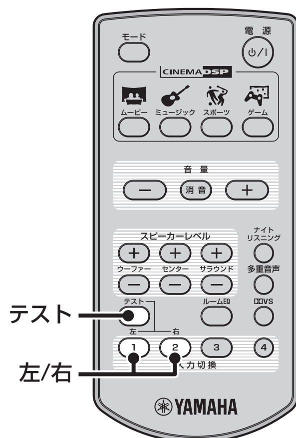


ハードルーム
（すべてのステータスインジケーターが点滅）

3 設定を終了するには、ルーム EQ キー以外のキーを押すか、キー操作をしないで約 5 秒間待ちます。

■ 仮想サラウンドスピーカーの位置を設定する

お部屋のサイズや形状に合わせて、仮想サラウンドスピーカーの位置を設定します。5 種類の中から、左／右チャンネル個別に設定してください。（左キーで左チャンネルの設定を、右キーで右チャンネルの設定を変更します。）



ご注意

お部屋の環境により、エアーサラウンドによる音響効果が十分に得られない場合があります。たとえば以下のような環境でご使用の場合、エアーサラウンドの音響効果は減少します（または効果がありません）。
- サテライトスピーカーをラックの中に設置している。
- サテライトスピーカーが側面の壁に対して垂直に設置されていない。
- サテライトスピーカーの正面や斜め前方向に障害物がある。
- 音が反射する地点（右図の A、B）に家具などを設置している。
- 音が反射するための壁や窓ガラスがない。

1 テストキーを押す。

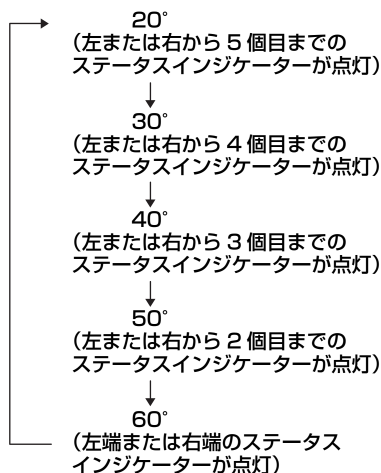
各スピーカーチャンネルから約 2.5 秒ずつテストトーンが出力されます。

2 左キー（または右キー）を一度だけ押して現在の設定を確認する。

ステータスインジケーターが現在の設定を点滅表示（約 2.5 秒間）します。初期設定では、左／右チャンネルともに 40°が選択されています。

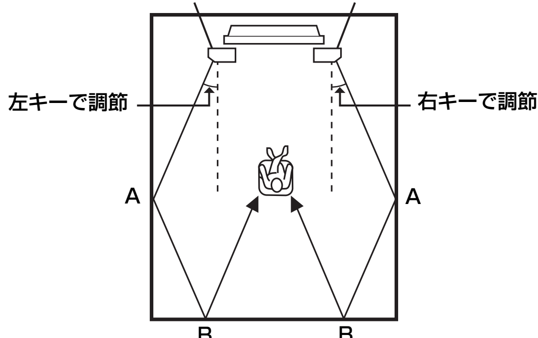
3 ステータスインジケーターが点滅中に、左キー（または右キー）を押して設定を変更します。

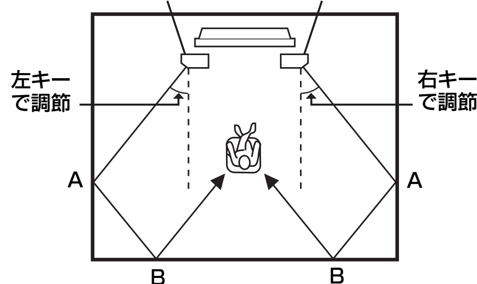
左キー（または右キー）を押すたびに以下のように切り替わります。





下図のようにサラウンドチャンネルの音が視聴位置に向かうように設定します。この際、音が最初に反射する地点（A）は視聴位置より後ろになるように設定してください。推奨する視聴環境とエアーサラウンドの設定値については、「エアーサラウンド推奨値」（→ 20 ページ）をご参照ください。





4 設定を終了するには、TEST キーを押します。



仮想サラウンドスピーカー位置の設定を初期状態に戻すには、テストトーン出力中に本体フロントパネルの入力切換キーを押します。（スピーカーバランスも同時に初期状態に戻ります。）

その他の情報

ステータスインジケーターの表示

ステータスインジケーターでは、音量レベルや入力信号の種類を確認することができます。

■ 音量レベルの表示

各スピーカーチャンネルの音量レベル表示（全体音量との差、単位：dB）

インジケーター（緑色）	●1 -8	●1 ●2 -8 -6	●2 -6	●2 ●3 -6 -4	●3 -4	●3 ●4 -4 -2	●4 -2	●4 ●5 -2 0	●5 0
フロント左 / 右	− 6	− 5	− 4	− 3	− 2	− 1.5	− 1	− 0.5	± 0
センターサラウンド左 / 右	− 4	− 3.5	− 3	− 2.5	− 2	− 1.5	− 1	− 0.5	± 0
サブウーファー	− 8	− 7	− 6	− 5	− 4	− 3	− 2	− 1	± 0

インジケーター（緑色）	●5 ●6 0 +2	●6 +2	●6 ●7 +2 +4	●7 +4	●7 ●8 +4 +6	●8 +6	●8 ●9 +6 +8	●9 +8
フロント左 / 右	−	−	−	−	−	−	−	−
センターサラウンド左 / 右	＋ 0.5	＋ 1	＋ 1.5	＋ 2	＋ 2.5	＋ 3	＋ 3.5	＋ 4
サブウーファー	＋ 1	＋ 2	＋ 3	＋ 4	＋ 5	＋ 6	＋ 7	＋ 8

■ 入力信号の表示

本機は入力した音声信号を自動的に認識します。手動でほかの信号に切り替えることはできません。各信号について詳しくは「用語解説」（→ 21 ページ）をご参照ください。

DD Digital	DTS	AAC	主/副	オート	
● 2	○ 3	○ 4	○ 5	● 6	ドルビーデジタル信号の入力時
○ 2	● 3	○ 4	○ 5	● 6	DTS 信号の入力時
○ 2	○ 3	● 4	○ 5	● 6	AAC 信号の入力時
○ 2	○ 3	○ 4	○ 5	● 6	アナログ信号または PCM 信号の入力時



シネマ DSP またはドルビープロロジック II のいずれかのモードが選択されている場合、「オート」は消灯します。

故障かな？と思ったら

使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、まず下記の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や下記の対処を行っても正常に作動しない場合は、本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから、お買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点までお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源を入れてもすぐに切れる	電源コードが正しく接続されていない。	電源コードが正しくコンセントに接続されていることをご確認ください。
	スピーカーケーブルがショートした。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。（→ 7 ページ）
	本機が落雷や過度の静電気など外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒経ってから電源コードをコンセントに再接続して、電源をオンにしてください。
スピーカーから音が出ない	音量が最小に設定されている。	音量を調節してください。（→ 11 ページ）
	消音機能を使用している。	消音を解除してください。（→ 11 ページ）
	入力が正しく選択されていない。	正しい入力を選択してください。（→ 11 ページ）
	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。（→ 7 ～ 9 ページ）
片側のチャンネルの音がほとんど出ない	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。（→ 7 ～ 9 ページ）
フロントスピーカーチャンネル以外の音が出ない	ステレオ再生を設定している。	シネマ DSP または別の音場を選択してください。（→ 12 ページ）
	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTS 、AAC 信号でエフェクト信号が含まれていないソースを再生している。	別の音場を選択してください。（→ 12 ページ）
センタースピーカーチャンネルの音が出ない	センタースピーカーチャンネルの音量が最小に設定されている。	テストトーンを使用して、センタースピーカーチャンネルの音量を調節してください。（→ 14 ページ）
	ドルビーデジタル、DTS、または AAC にセンターチャンネル信号が含まれていない。	この場合、センタースピーカーチャンネルの音は出力されません。
サラウンドスピーカーチャンネルの音が出ない	サラウンドスピーカーチャンネルの音量が最小に設定されている。	テストトーンを使用して、サラウンドスピーカーチャンネルの音量を調節してください。（→ 14 ページ）
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーチャンネルの音量が最小に設定されている。	サブウーファーチャンネルの音量を調節してください。（→ 14 ページ）
	サブウーファー用ピンケーブルまたはシステム接続ケーブルが正しく接続されていない。	これらのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。（→ 7 ページ）
	LFE などの低音信号が含まれていないソースを再生している。	適正範囲を超える信号はサブウーファーから出力されません。
音が不良である（雑音が出る）	ケーブルが正しく接続されていない。	すべてのケーブルが正しく接続されていることをご確認ください。（→ 7 ～ 9 ページ）
本機が正常に作動しない	本機が落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	本機の電源をスタンバイにして電源コードを抜いてください。約 30 秒経ってから電源コードをコンセントに再接続して、電源をオンにしてください。
周囲に設置しているデジタル機器や高周波機器から雑音が出る	本機とデジタル機器または高周波機器の位置が近すぎる。	本機をそれらの機器から離して設置してください。

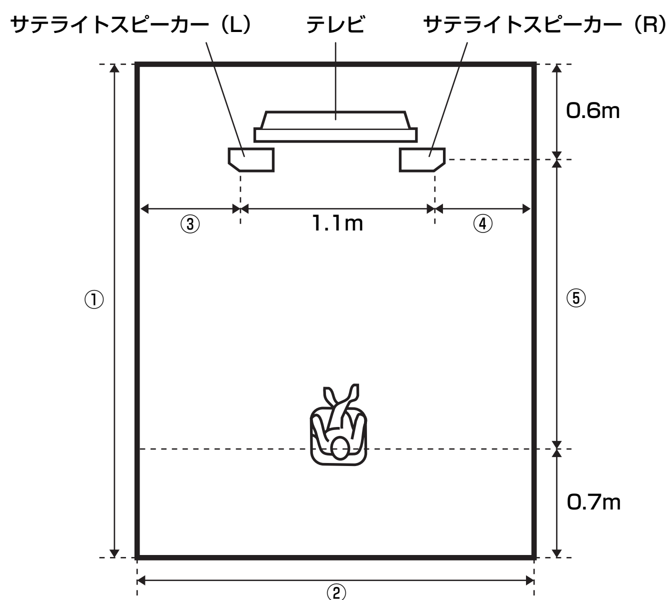
症状	原因	対策
リモコンでシネマステーション本体を操作できない	リモコンの操作範囲外から操作しようとしている。	リモコンの操作範囲については、「リモコンを使用する」（→ 10 ページ）をご参照ください。
	本機のリモコン受光部に直射日光や照明があたっている。	照明または本機の向きを変更してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。（→ 10 ページ）

エアーサラウンド推奨値

推奨する視聴環境と、仮想サラウンドスピーカー位置（→ 17 ページ）の推奨値は以下のとおりです。

ご注意

お部屋の環境（サテライトスピーカーや家具などの位置）により、エアーサラウンドによる音響効果が十分に得られない場合があります。このような場合、下図を参考にスピーカーや家具の位置を調節してから、設定してください。



部屋の広さ：（縦①×横②）	側面の壁とスピーカーの距離：③および④	スピーカーと視聴位置の距離：⑤	推奨値
４畳半（2.7m × 2.7m）	0.8m	1.4m	30°
6 畳（3.6m × 2.7m）	0.8m	1.4m	30°
	0.8m	2.2m	20°
6 畳（2.7m × 3.6m）	0.8m	1.4m	30°
	1.2m	1.4m	40°
	1.6m	1.3m	50°
8 畳（3.6m × 3.6m）	0.8m	2.2m	20°
	1.2m	2.1m	30°
	1.6m	1.9m	40°
10 畳（3.6m × 4.5m）	0.8m	2.2m	20°
	1.2m	2.1m	30°
	1.6m	1.9m	40°
10 畳（4.5m × 3.6m）	0.8m	2.2m	20°
	1.2m	2.1m	30°
	1.6m	1.9m	40°
	2.0m	1.7m	50°

用語解説

アドバンスト オーディオ コーディング
AAC（Advanced Audio Coding）

MPEG-2 オーディオ規格に含まれるデジタル圧縮オーディオ信号です。BS ／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。

エアーサラウンド

フロントスピーカーだけで、自然で方向感の優れたサラウンド効果を広範囲で創りだすヤマハ独自の音場創生技術です。サラウンド効果（壁の反響特性）と仮想サラウンドスピーカー位置（音声の出力方向）を視聴環境に合わせて設定することで、より質の高い音響効果を得られます。

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数を指します。再生できる周波数帯はサンプリング周波数で決まるので、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がります。

シネマ DSP

実測データに基づいて作成した音場データと各種サラウンドデコーダーを組み合わせた映像ソース用音場プログラムの総称です。前方方向に奥行きと広がりを持たせるプレゼンス音場と、サラウンド側に包囲感と広がりを持たせるサラウンド音場の2つの音場処理を主としたヤマハ独自の音場創生技術です。モノラルから 6.1 チャンネルフォーマットまであらゆる音源やサラウンドフォーマットに音場効果を加えて再現することが可能です。

チャンネル（ch）

出力される音域や特性によって区別された音声の種類です。

例）5.1 チャンネル

- フロントスピーカー［L(1ch)/R(1ch)］
- センタースピーカー（1ch）
- サラウンドスピーカー［L(1ch)/R(1ch)］
- サブウーファー［1ch × 0.1*=0.1ch］

* 低音の出力を補うサブウーファーは、周波数範囲が他のスピーカーに比べて狭いので、0.1 チャンネルと扱われます。

デジタル シアター システムズ
DTS（Digital Theater Systems）

Digital Theater Systems 社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。最大 5.1 チャンネルのサウンドが再生でき、圧縮率が低いため、リアルな音響効果が得られます。

ドルビーデジタル

ドルビー社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。完全に独立したマルチチャンネル音声を再生することができます。全帯域の音声成分を持つフロントの3チャンネル（フロント L/R、センター）と、サラウンドのステレオ2チャンネル、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。サラウンドがステレオ2チャンネルで収録されているため、音の移動感、木々のざわめきや波の音などの繊細な環境音もきめ細かく再現できます。

ドルビー バーチャル スピーカー
DVS（Dolby Virtual Speaker）

ドルビー社が開発したデジタル・サラウンド・システムです。従来のバーチャルスピーカー技術よりも現実味のあるサラウンド空間を創り出します。

ドルビープロロジック II

2 チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換するサラウンドシステムです。映画用の MOVIE モード、音楽などのステレオソース用の MUSIC モードが用意されています。従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

パルス コード モジュレーション
PCM（Pulse Code Modulation）

圧縮せずにデジタル信号に置き換えられた信号です。CD では、44.1kHz/16bit で記録されているのに対し、DVD では 48kHz/16bit ～ 192kHz/24bit で記録されているので、CD よりも高音質で再生できます。また、この信号を、情報量を損なうことなく圧縮したものをパック PCM（PPCM）といいます。

その他の情報

主な仕様

アンプユニット

型名 AVC-S30
定格出力 .... 30W × 6（1kHz、6Ω、1%THD）
実用最大出力
　フロント .... 35W × 6（6Ω、10%THD）
入力感度 200mV
ヘッドホン出力／インピーダンス
.... 125mV ／ 8Ω（1kHz、200mV）
電源電圧／周波数 .... AC100V、50/60Hz
消費電力 44W
待機時消費電力 .... 0.4W 以下
寸法（幅×高さ×奥行き） .... 215 × 70 × 305mm
質量 2.6kg

サテライトスピーカー

型名 NX-S30
型式 .... フルレンジ密閉防磁型
スピーカーユニット .... 5cm コーン防磁型× 3
入力インピーダンス 6Ω
寸法（幅×高さ×奥行き） .... 240 × 80 × 105mm
質量 1.4kg

サブウーファー

型名 NX-SW30
型式 .... アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジー
スピーカーユニット .... 16cm コーン防磁型
入力インピーダンス 12kΩ
出力 .... 50W（100Hz、5Ω、10%THD）
電源電圧／周波数 .... AC100V、50/60Hz
消費電力 25W
寸法（幅×高さ×奥行き） .... 280 × 325 × 289mm
質量 8.2kg

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当あたりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

著作権

ディスクを無断で複製、放送、公開演奏、レンタルすることは法律により禁じられています。

SILENT™ CINEMA

「サイレントシネマ／ SILENT CINEMA」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

AIR SURROUND

AV アンプ（AVC-S30）は、2 本のサテライトスピーカー（合計 6 個のスピーカーユニット）により、自然で幅広い 5.1 チャンネルの臨場感を創り出すヤマハエアーサラウンドを採用しています。

Advanced Y·S·T

サブウーファー（NX-SW30）は豊かな重低音を再生する、アドバンスド ヤマハ アクティブ サーボ テクノロジーを搭載しています。

QD·Bass TECHNOLOGY

サブウーファー（NX-SW30）は、キャビネット底面のピラミッド型拡散板により水平 4 方向に低音成分を効率よく放射する "QD-Bass テクノロジー " を採用しています。

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II　DOLBY VIRTUAL SPEAKER

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブル D 記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DIGITAL dts SURROUND

DTS および DTS デジタルサラウンドはデジタルシアターシステムズの登録商標です。



AAC ロゴマークはドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/211,547	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

音楽を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも 1 つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ＆ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター



0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL(053)460-3409

FAX (053)460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受　付　日 ： 月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間 ： 10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター



0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053)463-1127

受　付　日 ： 月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間 ： 月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受　付　日 ： 月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間 ： 9:00～17:45

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松　〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ（株）和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋　〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ（株）名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪　〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品（下記参照）が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ･リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！


愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード･プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常･故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検･修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1



ヤマハ株式会社
Printed in Malaysia WF66580-1